

# つながり

市同協加布里支部

令和4年11月1日発行

平成10年起

第94号

加布里コミュニティセンター(歌舞里館)

TEL/FAX322-3026

## フィールドワーク 2022

9月16日(金)、糸島市人権・同和教育推進協議会加布里支部は、大牟田市へ視察研修に行きました。大牟田市は、明治以降の日本の産業・経済の発展に貢献した石炭産業で栄えた町です。

- ①大牟田市動物園は、人権映画「いのちスケッチ」の舞台となった動物の命、健康を第一に考える福祉動物園です。そこで、動物と人間の命について考えました。
- ②高度な発展の陰で、石炭産業を支えた人たちの労働の過酷さやその中での人間としての生き方を学びました。

### 大牟田市動物園



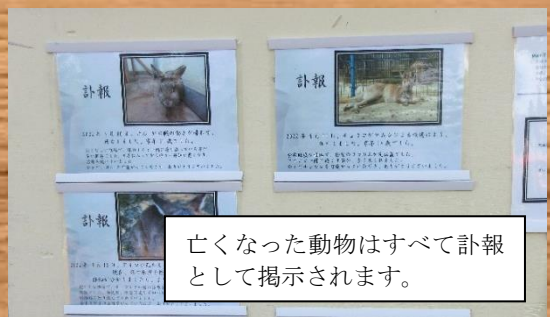
入園してすぐに園長(映画の中では武田鉄矢)が動物の福祉について語ってくれました。



道端に孔雀がいます。はじめて孔雀に触りました。



小さなモルモットにもすべて名前がついていて、見分けがつくそうです。



亡くなった動物はすべて訃報として掲示されます。

### 石炭産業に関する研修



ガイドさんの話を真剣に聞きました

#### 参加者の感想より

石炭産業科学館では、日本の近代化を支えたエネルギーである石炭の増産体制を確立するために、時代とともに進歩した多くの産業技術を見ることができました。この様な炭鉱の技術発展の陰には炭鉱を支えた多くの人たちの力があつたと思います。

この多くの労働者の中には、刑に服している囚人や外国籍の人たち、中には被差別部落の人たちも多くいたということでした。

この様に炭鉱の歴史の中には人権差別もあつたことですが、ガイドの方の話によると、危険な坑内で働く者同士、互いを思いやる心優しい方が多く、助け合うことのできる温かい職場でもあつたそうです。

私の炭鉱へのイメージが大きく変わった研修でした。



世界遺産「宮原坑」にて

# 人権映画祭のご案内

期 日：12月3日(土)  
時 間：13時30分開場  
14時00分開演  
場 所：歌舞里館 大会議室  
作品名：『あの日のオルガン』

昭和から平成。そして、新たな時代へ語り継ぎたい物語。  
知られざるヒロインたちの感動の実話、遂に映画化!



怒った。泣いた。笑った。そして、生きた。



## STORY

都越保育所の主任保母・板倉楓は、園児たちを空襲から守るため、親元から遠く離れた疎開先を模索していた。最初は反発していた親たちも、子どもだけでも生き延びてほしいという一心で保母たちに我が子を託すことを決意、しかしようやく見つかった受け入れ先はボロボロの荒れ寺だった。

幼い子どもたちとの生活は問題が山積み、それでも保母たちは子どもたちと向き合い、みっちゃん先生はオルガンを奏でみんなを勇気づけていた。

そんな願いをよそに1945年3月10日米軍の爆撃機が東京を襲来。やがて疎開先にも徐々に戦争の影が迫っていた。



\*事前申し込みが必要です。

電話または直接窓口でお申し込みください。

加布里コミュニティセンター「歌舞里館」  
(☎322-3026)

\*申し込みは、先着順50名とします。

\*当日はマスクの着用をお願いします。



## 行政区別人権研修会の開催

8月21日に神在二行政区で実施された研修会を皮切りに、今後多くの行政区で人権研修会が予定されています。教材として、ヤングケアラー問題を題材にしたDVD「夕焼け」を使われる行政区が多く、地域としてどう向き合うかを考える良い機会となります。

\*ヤングケアラー問題とは\*

ヤングケアラーとは、障がいや病気を抱えていてケアを要する家族がおり、家事や家族の世話などを行う18歳未満の子どもを指し、近年社会問題として注目されている。「学業に影響する」「交友関係が築けない」「体力、健康が損なわれる」「進路に影響する」などの問題点を抱える子どもが多く、行政の支援と並行して、支援を必要とする子どもの把握が急がれている。